

2019年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社

2019年5月10日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

The logo for Ushio Group, consisting of the word "USHIO" in a bold, white, sans-serif font, centered on a dark green rectangular background.

2019年3月期_(実績)：**減収減益決算**となった原因を分析

2020年3月期_(予想)：**増収増益を予想**する理由

※中期経営計画3年目の目標（営業利益150億円）を100億円に下方修正

- I. 2018年度 通期業績概況
- II. 2019年度 業績予想
- III. 2019年度 経営方針
- IV. 参考資料

決算発表のポイント

連結売上高は前年同期比4.8%減の1,651億円
連結営業利益は前年同期比16.1%減の85億円となり**減収減益決算**

修正公表値に対する進捗率：売上高100.1%、営業利益100.2%
(期初公表値に対する進捗率：売上高91.7%、営業利益68.1%)

売上高 : 1,651億円 (前年比▲83億円、▲4.8%)

- ・映像事業 映画館新設数減少によるDCP販売数減少、映像ソリューション案件減少
- ・光源事業 固体光源化 (LD、LED化) によるランプ需要減少

営業利益 : 85億円 (前年比▲16億円、▲16.1%)

- ・売上高減少による減益
- ・映像装置 構造改革進展により販管費減少

親会社株主に帰属する

当期純利益 : 113億円 (前年比+3億円、+2.9%)

為替感応度：1円変動による影響額（通期）

※為替平均レート（FY18）：1USDドル=111円

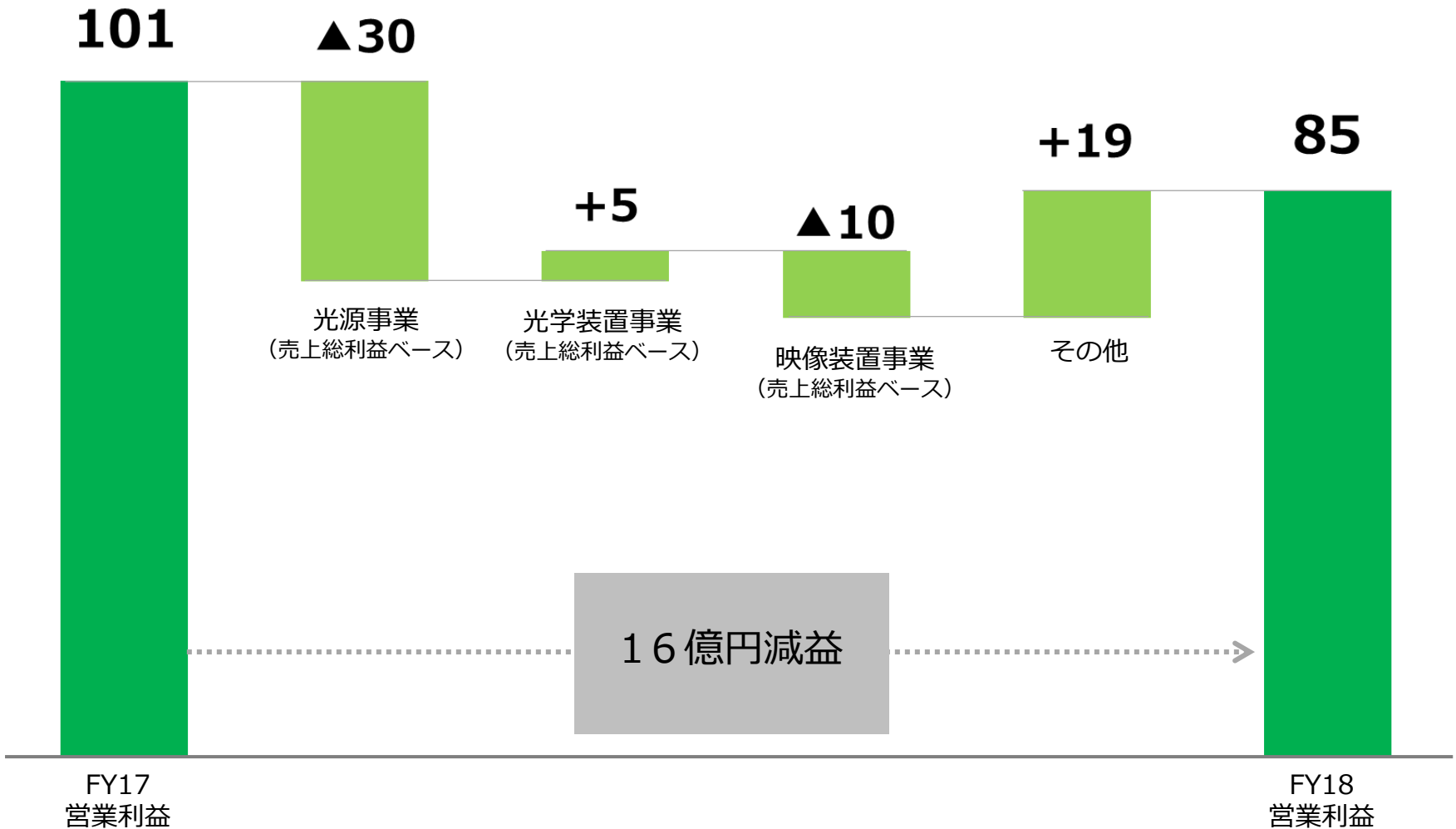
	売上高	営業利益
対USD	約10億円	約1.5億円

売上高・損益

単位：億円	FY17	FY18	前年同期比		
			増減	%	
売上高	1,734	1,651	▲83	▲4.8	
営業利益	101	85	▲16	▲16.1	
営業利益率(%)	5.9	5.2	▲0.7P	-	
経常利益	120	114	▲6	▲5.1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	110	113	+3	+2.9	
EPS (円)	86.11	88.85	+2.74	+3.2	
ROE (%)	5.1	5.3	+0.2P	-	
1株当たり配当額 (円)	26	50	+24	-	
配当性向 (%)	30.2	56.3	+26.1P	-	
為替レート (円)	USD	111	111	▲0	-
	EUR	129	129	▲0	-

前年同期比 営業利益増減分析

単位：億円



注：「光源事業（売上総利益ベース）」～「その他」の要因は、「為替影響」を除いた金額。

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

単位：億円		FY17	FY18	前年同期比	
				増減	%
装置事業	売上高	976	946	▲30	▲3.1
	営業利益	▲5	▲3	+2	+41.1
	営業利益率 (%)	▲0.5	▲0.3	+0.2P	-
光源事業	売上高	724	671	▲52	▲7.2
	営業利益	104	83	▲20	▲19.6
	営業利益率 (%)	14.4	12.5	▲1.9P	-
その他	売上高	34	33	▲1	▲3.7
	営業利益	1	1	▲0	▲22.1
	営業利益率 (%)	3.8	3.0	▲0.7P	-
全社・消去	営業利益	1	3	+2	+170.6

注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

事業環境

エレクトロニクス分野

半導体・電子部品関連市場

- ・IoTや5G、車載の進展による各種電子デバイス向け需要は堅調
- ・スマートフォンの小型化・高機能化に向けた電子デバイス需要は堅調
- ・M-SAP関連の需要は一服感あり
- ・中国景気の減速により、プリント基板向け需要に不透明感あり

FPD関連市場

- ・中小型パネルは、液晶からOLEDへ移行も一服感あり
- ・大型パネルは液晶を中心に投資拡大も、パネル供給量の調整局面入りで稼働は低調

ビジュアルイメージング分野

シネマ分野

- ・中国で映画館の新設が続くも、全世界の年間新設数は鈍化傾向
- ・新設映画館の半数が固体光源タイププロジェクターを採用も、設置済みシネマプロジェクターの約9割がランプタイププロジェクター
- ・中国におけるシネマプロジェクターの光源部分置き換え継続（ランプ→固体光源）

一般映像分野

- ・エンターテインメント向けで映像ニーズが増加傾向

データプロジェクター分野

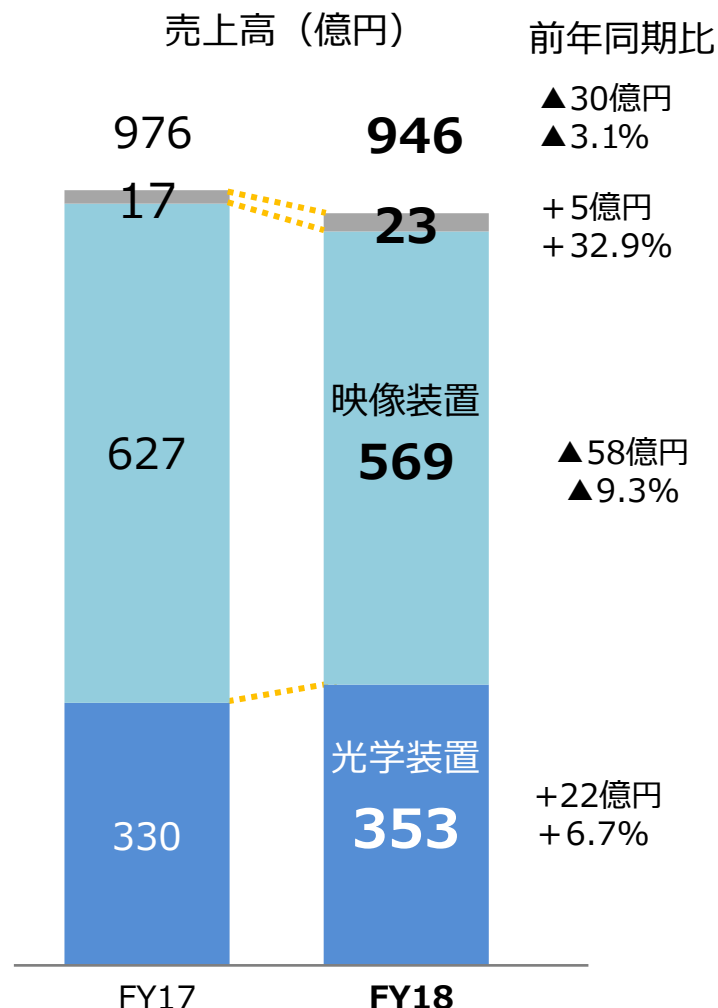
- ・高輝度プロジェクターに採用される固体光源の割合増加

共通

米中貿易摩擦などを背景とした中国景気の減速による影響が出始めている

セグメント別 概況（1）

装置事業



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

事業概況（通期）

映像装置

シネマ：▲11%

- ・ DCPの販売台数減少
- ・ RGBレーザープロジェクターは計画を下回り推移

一般映像：▲8%

- ・ ソリューション案件の売上減少
- ・ LaPHプロジェクター販売開始も計画を下回り推移

光学装置

UV装置：+5%

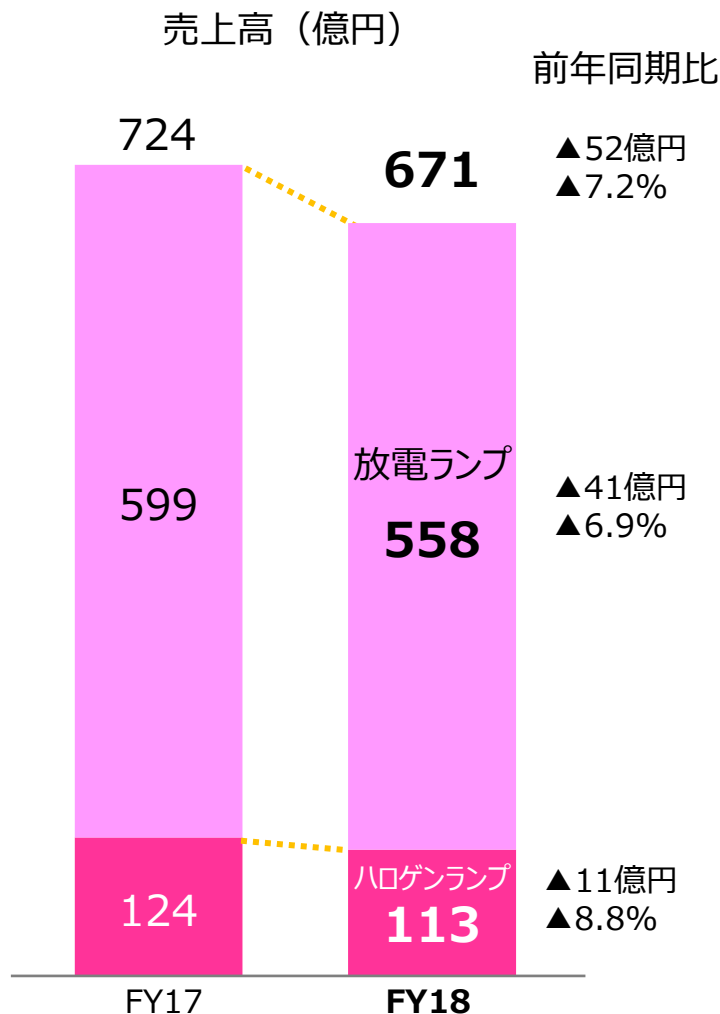
- ・ スマートフォンを中心とした電子デバイス向け
投影露光装置の販売増加
- ・ M-SAP向け直描式露光装置需要は一服感あり

キュア装置：+19%

- ・ 大型パネル向け液晶関連装置の販売増加
- ・ 光配向装置の販売台数減少

セグメント別 概況（2）

光源事業



注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

事業概況（通期）

放電ランプ

UVランプ：+1%

- ・大型液晶向け需要は増加
- ・OLED向けは投資抑制の影響で減少

シネマ用ランプ：▲9%

- ・中国の固体光源化の影響でランプ需要低迷
- ・競争激化により単価下落

データプロジェクター用ランプ：▲20%

- ・前期に特定ユーザーで採用拡大したものが減少
- ・市場で固体光源化が進みランプ需要減少

ハロゲンランプ

OA用ランプ：▲10%

- ・中国景気減速によるランプ需要減少

通期公表値・実績比較

単位：億円

	FY18 実績	通期公表値		差異		達成率 (%)	
		期初計画	1.31修正	対期初計画	対1.31修正	対期初計画	対1.31修正
売上高	1,651	1,800	1,650	▲148	+1	91.7	100.1
営業利益	85	125	85	▲39	+0	68.1	100.2
営業利益率 (%)	5.2	6.9	5.2	▲1.8P	+0.0P	-	-
経常利益	114	140	105	▲25	+9	81.7	108.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	113	115	115	▲1	▲1	98.5	98.5
EPS (円)	88.85	90.01	90.24	▲1.2P	▲1.4P	98.7	98.5
1株当たり配当額 (円)	50	30	50	+20	-	-	-
配当性向 (%)	56.3	33.3	55.4	+23.0	+0.9	-	-
設備投資額	79	70	-	+9	-	113.1	-
減価償却費	67	65	-	+2	-	104.2	-
研究開発費	101	105	-	▲3	-	96.3	-
為替レート (円)	USD	105	110	+6	+1	-	-
	EUR	129	125	+4	▲1	-	-

サブセグメント別売上高 計画値・実績比較

単位：億円

		FY18 実績	通期計画		差異		達成率 (%)		
			期初計画	1.31修正	対期初計画	対1.31修正	対期初計画	対1.31修正	
売上高	装置事業	映像装置	569	600	555	▲30	+14	95.0	102.7
		光学装置	353	375	350	▲21	+3	94.2	100.9
		照明装置他	23	15	20	+8	+3	156.6	117.4
		小計	946	990	925	▲43	+21	95.6	102.3
	光源事業	放電ランプ	558	645	580	▲86	▲21	86.5	96.2
		ハロゲンランプ	113	125	115	▲11	▲1	91.0	98.9
		小計	671	770	695	▲98	▲23	87.3	96.7
	その他	産業機械他	33	40	30	▲6	+3	82.6	110.1
	合計		1,651	1,800	1,650	▲148	+1	91.7	100.1
	営業利益		85	125	85	▲39	+0	68.1	100.2

中期計画2年目 未達の要因（反省と成果）

内部要因

重点施策		各種施策	反省と成果	
既存事業の収益性の維持・改善	光源事業	生産性向上・品質向上	▲	反省：生産性向上も、減収により収益性悪化
	光学装置	体質改善による大幅な収益改善	○	成果：収益性向上
	映像装置	抜本的な収益構造改革		
		1. 不採算事業の整理・売却	▲	成果：一部事業を除き整理完了 反省：事業構造改善費用の計上
2. 抜本的な生産場所の見直し		○	成果：計画通り移管完了	
	3. 高付加価値製品の投入	×	反省：一部市場における要求仕様未達（RGB）	
新たな成長機会の追求		新規市場開拓・新規事業創出	▲	成果：マスク検査用EUV光源の立ち上げ 反省：他の新規事業は計画未達
		シナジー重視のM & A	▲	成果：ビアメカニクス買収（光学装置） 反省：M&A成立案件の不足

外部要因

スマートフォン需要減 及び **中国景気減速による影響**

-
- I. 2018年度 通期業績概況
 - II. 2019年度 業績予想**
 - III. 2019年度 経営方針
 - IV. 参考資料

業績予想

単位：億円		FY18 実績	FY19 予想	前年同期比	
				増減	%
売上高		1,651	1,700	+48	+2.9
営業利益		85	100	+14	+17.4
営業利益率 (%)		5.2	5.9	+0.7P	-
経常利益		114	120	+5	+4.9
親会社株主に帰属する 当期純利益		113	115	+1	+1.5
EPS (円)		88.85	94.17	+5.3	+6.0
ROE (%)		5.3	5.4	+0.1P	-
1株当たり配当額 (円)		50	50	-	-
配当性向 (%)		56.3	53.1	▲3.2P	-
為替レート(円)	USD	111	110	▲1	-
	EUR	129	125	▲4	-

サブセグメント別 事業予想

装置事業 6.7%

映像装置
+3.5%

- ・中国を中心とした映画館新設数は鈍化傾向により、DCP総販売台数は減少
- ・シネマ分野のレーザーニーズ拡大を受け、RGBレーザープロジェクターの販売割合増加
- ・DCPの置き換え需要の本格化は2020年度以降
- ・一般映像分野のレーザーニーズに対応し、各種レーザープロジェクターの販売割合増加

光学装置
+13.3%

- ・IoTや5Gの進展による最先端 I Cパッケージ基板向け投影露光装置の需要が増加
- ・スマートフォンのOLED採用等による狭額縁化で、フレキシブル基板向け投影露光装置の需要が増加
- ・スマートフォン高機能化や車載などの半導体・電子部品向け露光装置は堅調に推移
- ・液晶投資の一巡により、関連装置の需要は減少

光源事業 ▲2.5%

放電ランプ
(固体光源含む)
▲3.3%

- ・UVランプは、半導体やFPDの一部で設備投資抑制が継続し需要は低調に推移
- ・シネマ用ランプは、中国固体化の流れは減速するも、固体化による需要減は緩やかに継続
- ・データプロジェクター用ランプは、市場での固体光源化が加速し需要は減少
- ・固体光源は、プロジェクター及び印刷用途での販売に加え、センシングや計測分野が増加

ハロゲンランプ
+1.1%

- ・OA用途は需要が減少傾向も、環境対応の高付加価値ランプ投入で売上横ばい見込み

※増減率は、FY18売上高実績比

サブセグメント別 売上高予想

単位：億円			FY18	FY19	前年同期比	
			実績	予想	増減	%
売上高	装置事業	映像装置	569	590	+20	+3.5
		光学装置	353	400	+46	+13.3
		照明装置他	23	20	▲3	▲14.9
		小計	946	1,010	+63	+6.7
	光源事業	放電ランプ	558	540	▲18	▲3.3
		ハロゲンランプ	113	115	+1	+1.1
		小計	671	655	▲16	▲2.5
	その他	産業機械他	33	35	+1	+6.0
	合計		1,651	1,700	+48	+2.9

2019年度の成長ドライバー

映像装置 レーザーニーズ拡大、新製品販売の本格化

収益性の改善

FY18

- ・抜本的な固定費削減
大幅な人員削減、不採算事業の整理

FY19

- ・更なる固定費削減と生産性向上
- ・削減後の販管費率を維持

新製品による粗利益の改善

シネマ（RGBプロジェクター）

- ・市場要求未達解消
- ・ラインナップ拡充で販売強化

一般映像

市場ニーズに対しRGB含めたレーザープロジェクター
ラインナップ拡充により販売増加

※RGB受注情報（スライド40～41）

光学装置 露光装置の新規需要増加

分割投影露光装置 （UX-5シリーズ）



IoT進展に伴う、
大容量かつ高速データ処理用
データセンター向けサーバーの需要増加

→ 最先端ICパッケージ基板の新たな需要増加

ロール搬送投影露光装置 （UFXシリーズ）



スマートフォンをはじめ、
ディスプレイ分野で
OLEDの採用や狭額縁化が進む

→ フレキシブル基板の新たな需要増加

I. 2018年度 通期業績概況

II. 2019年度 業績予想

III. 2019年度 経営方針

IV. 参考資料

1. 2019年度の位置づけ
2. 課題認識
3. 経営方針（2019年度）
4. セグメント別 見通しと施策
 - 4-1. 光源事業
 - 4-2. 光学装置
 - 4-3. 映像装置
5. 株主還元

1. 2019年度の位置づけ

2019年度を、再び持続的成長する最初の年とすると共に、
2020年度からスタートする新中期計画の確実性を高める施策を実行。

持続的に利益を稼ぎ出す力を高める

未来は「光」でおもしろくなる



現中期計画

(2017～2019年度)

次なる飛躍への基礎固め

目標：営業利益100億円

営業利益目標を

150億円から100億円へ下方修正

2019年度

(中期計画最終年度)

新中期計画

成長戦略策定
コアバリューの再定義
事業領域の特定

2020年5月

(新中期計画発表予定)

持続的な利益を創出。
持続的に社会課題解決に
貢献する企業へ。

2. 課題認識

中期計画 (FY17~FY19) 次なる飛躍への基礎固め

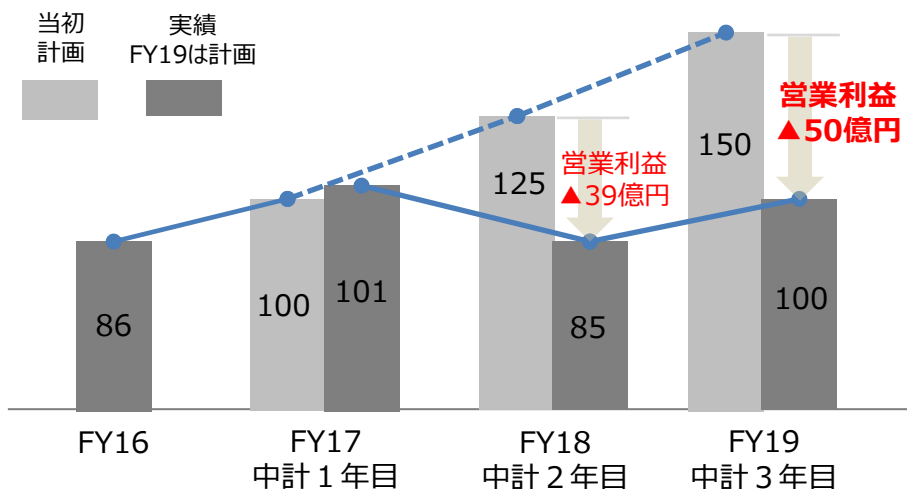
問題意識

- ・収益性が低迷（資産効率が悪化）
- ・今後の成長ドライバー欠如

重点施策

- ・既存事業の収益性の維持・改善
- ・新たな成長機会の追求

KPI：営業利益



外部要因

事業環境変化

中国ビジネスの増加、貿易戦争、保護主義、IoT・5Gの進展 など

事業構造的課題

光源の固体光源化加速
ランプ市場が成熟

内部要因

既存事業の「稼ぐ力」が弱まっている
新規事業を生み出すスピードの欠如



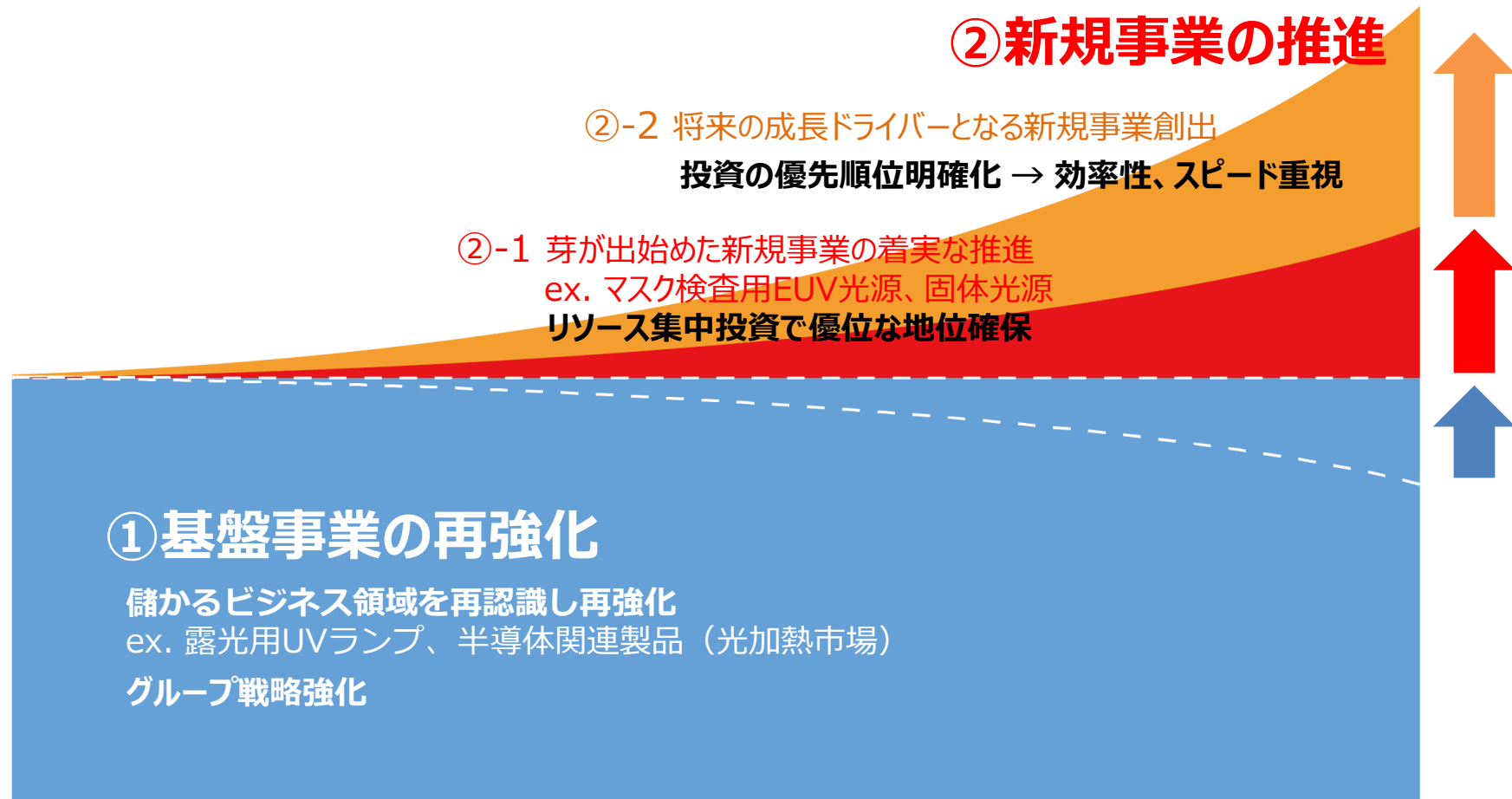
事業軸でのグループ戦略が欠如
効率性を追求する意識が欠如
(優先すべき点が不明確)

持続的成長ができていない

3. 経営方針（2019年度）

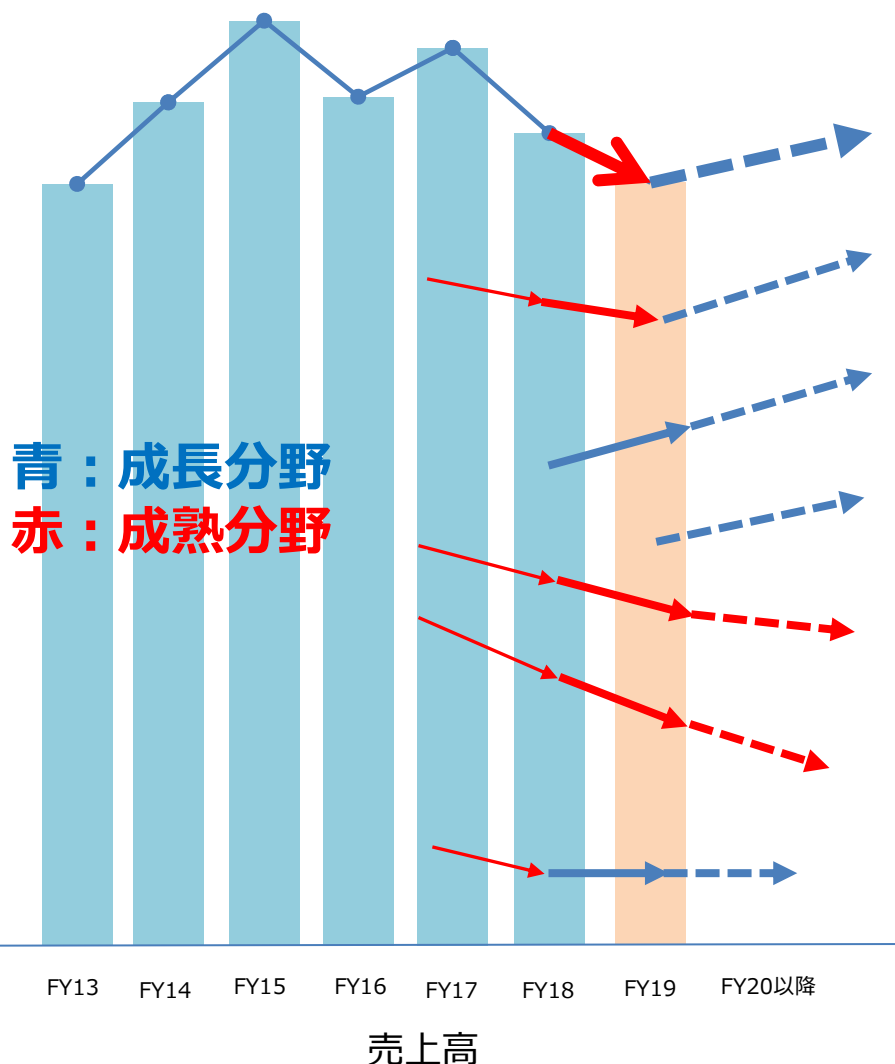
持続的に成長する企業へ“変革”

「稼ぐ力」の強化に注力し、持続的に利益拡大できる企業へ



4 - 1. 見通しと施策

光源事業



光源事業を基幹事業として再構築 FY20以降、再び **拡大基調へ**

露光用UVランプ

性能優位な光源投入 → シェア拡大
(FY19 設備投資抑制継続、FY20以降 需要は拡大基調へ)

固体光源

成長分野 × ウシオの“強み”

新用途向けランプ

環境・衛生用途、半導体光加熱用途

シネマ用ランプ

新製品投入 → シェア拡大 (需要は緩やかに減少)

データプロジェクター用ランプ

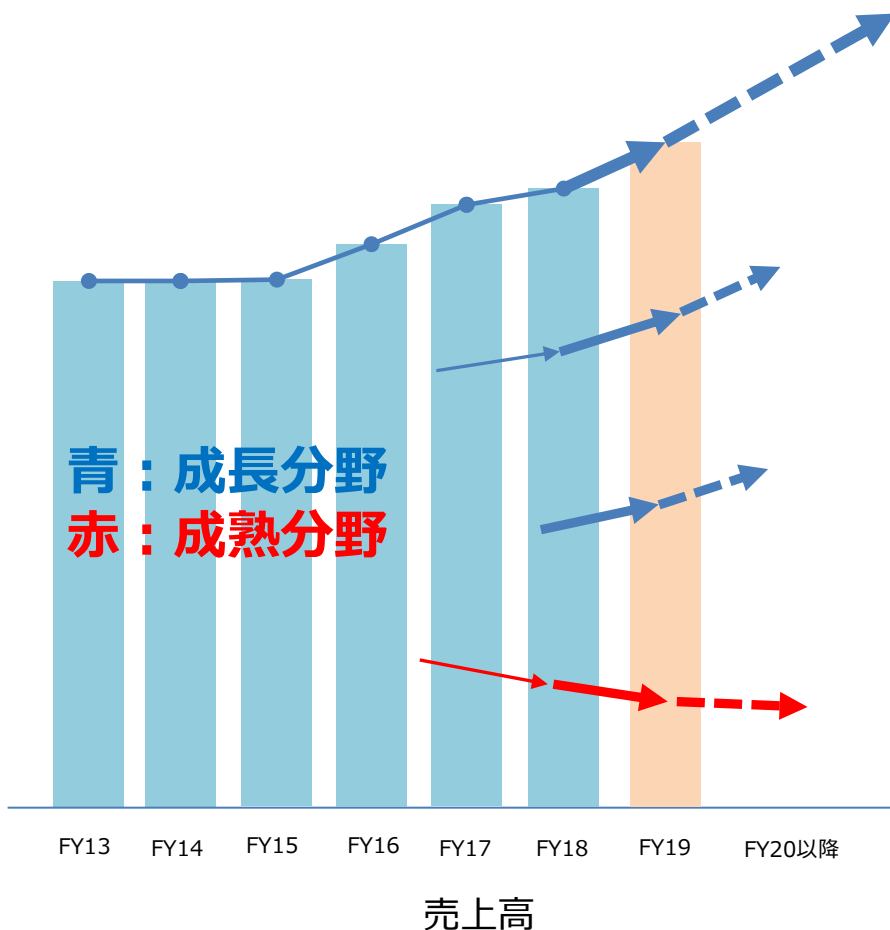
生産体制の縮小 → コスト削減 (需要は減少)

OA用ランプ

環境対応の新製品投入 → 売上高維持
(需要は緩やかに減少)

4 - 2. 見通しと施策

装置事業（光学装置）



IoT・5Gの進展を背景に
関連事業が **拡大**

UV装置

UX-5、UFXの需要が増加

→ 生産能力増強

次世代パッケージ基板用露光機(DI)が増加

→ 市場競争力ある製品投入

マスク検査用EUV光源【新規事業】

FY19 量産用初号機納入

メンテナンス事業による安定収益確保

キュア装置

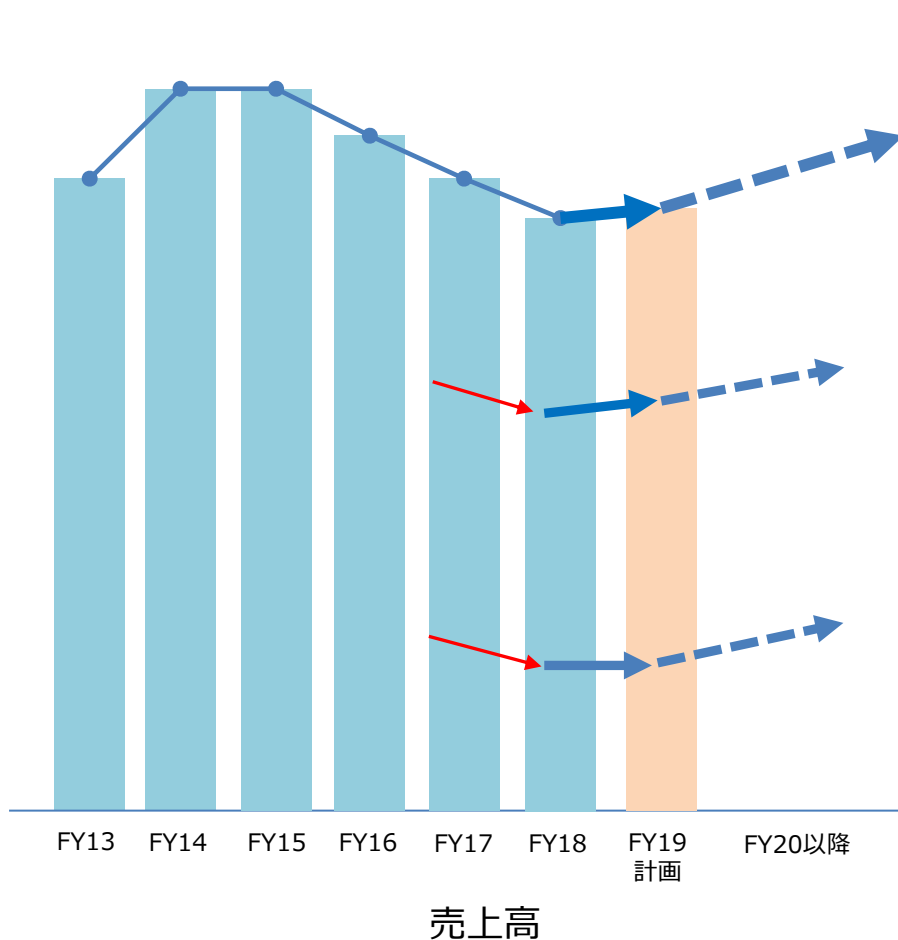
液晶投資が一巡し

光配向装置中心に需要減少

成長事業へ経営資源シフト

4 - 3. 見通しと施策

装置事業（映像装置）



市場ニーズが高まり、
FY19年以降 **緩やかに拡大基調へ**

シネマ

- ・ RGBモデルラインナップ拡充
 - ・ 新需要によりDCPは再び増加
- FY20以降 買い替え需要本格化及びPLF*拡大

一般映像

- ・ Pro AV*市場は堅調に成長
- ・ レーザープロジェクターのフルラインナップ化
市場ニーズに合わせたRGB、LaPhモデル投入
- ・ LEDソリューション提供強化

*PLF：Premium Large Formatの略。通常の映画経験以上の高音質、没入感を追求したスクリーンなどのこと

*Pro AV：Professional audio visualの略

5. 株主還元

1 株当たり配当額

(2020年3月期予想)

50円 維持

配当性向：53.1%

自社株買い

2018年12月公表の自社株買いの状況

(2019年3月末時点)

買付け株数：1,712千株 進捗率：約21%
買付け金額：21.6億円 進捗率：約22%

2018年12月20日発表内容

上限100億円

(800万株)

2018年12月21日～2019年12月20日

株主還元方針

当社は、株主各位に対する利益還元が企業として最重要課題の一つであることを常に認識し、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主各位に対し安定的・継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。自己株式の取得は機動的に実施します。保有する自己株式の上限は、発行済株式総数の5%を目途とし、その部分を上回る自己株式については毎年消却していきます。

-
- I. 2018年度 通期業績概況
 - II. 2019年度 業績予想
 - III. 2019年度 経営方針
 - IV. 参考資料**

四半期推移《損益》

単位：億円	FY17				FY18				FY18	FY17	FY18	FY18
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q	4Q	4Q	3Q
									増減	%	増減	%
売上高	417	434	445	436	399	426	397	427	▲9	▲2.2	+29	+7.4
営業利益	28	28	29	15	25	28	15	16	+0	+2.6	+0	+3.2
営業利益 (%)	6.7	6.5	6.6	3.6	6.4	6.6	3.9	3.8	+0.2P	-	▲0.2P	-
経常利益	39	30	37	12	39	32	22	19	+7	+58.1	▲3	▲13.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	65	17	2	24	22	12	21	56	+31	+126.2	+34	+160.7
EPS (円)	51.32	13.62	1.63	19.55	17.67	9.79	16.97	44.54	+24.99	+127.8	+27.57	+162.5
為替レート (円)												
USD	111	111	113	110	108	111	113	110	-	-	▲3	-
EUR	122	130	132	134	130	129	130	126	▲8	-	▲4	-

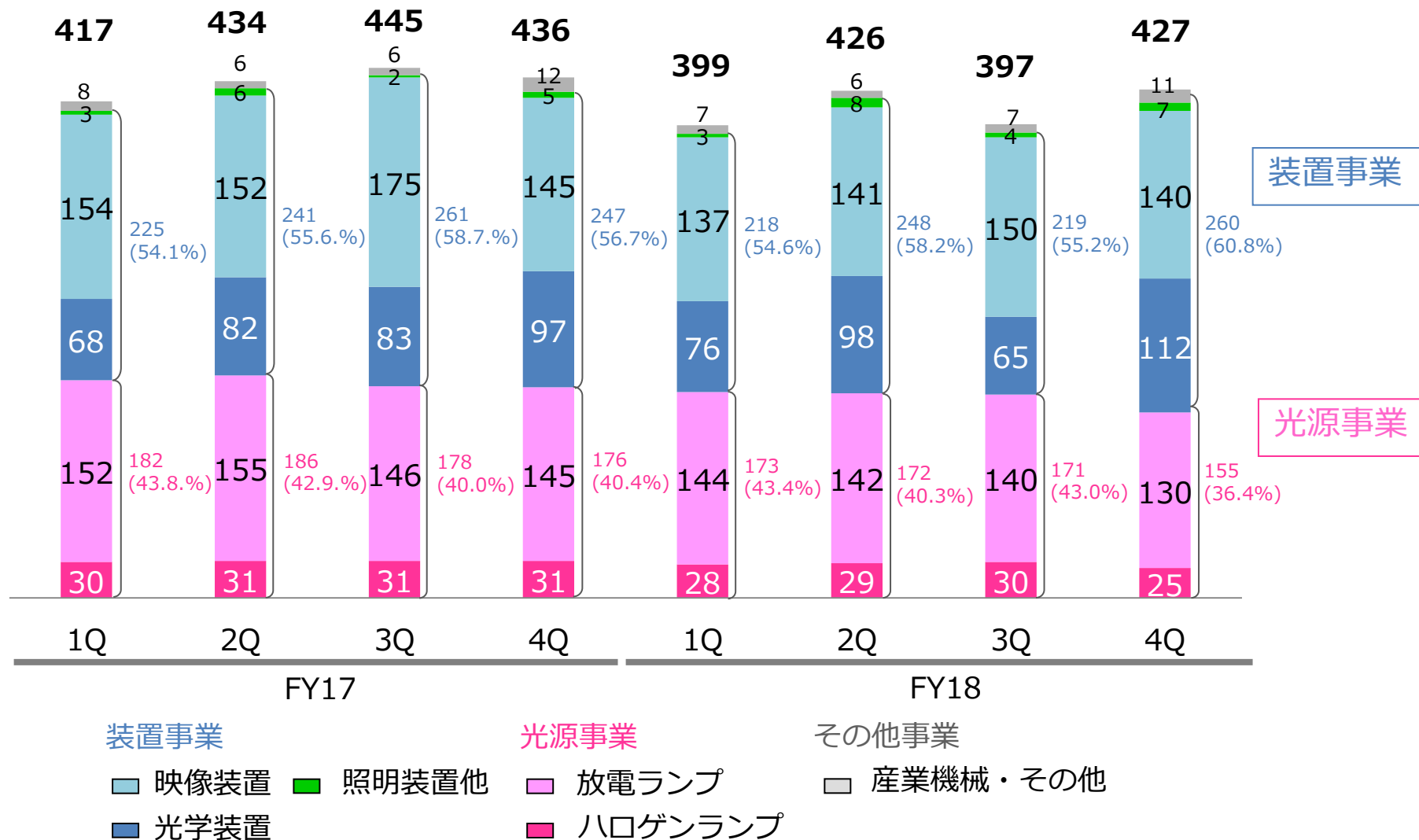
四半期推移《セグメント別》

単位：億円

	FY17				FY18				FY18	FY17	FY18	FY18
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q - 4Q	4Q	4Q - 3Q	4Q
									増減	%	増減	%
装置事業												
売上高	225	241	261	247	218	248	219	260	+12	+5.0	+40	+18.3
営業利益	0	▲0	4	▲9	0	1	▲4	▲0	+9	+97.6	+4	+95.2
営業利益率 (%)	0.2	▲0.1	1.6	▲3.7	0.0	0.7	▲2.1	▲0.1	+3.7P	-	+2.0P	-
光源事業												
売上高	182	186	178	176	173	172	171	155	▲20	▲11.8	▲15	▲9.1
営業利益	26	28	24	24	25	23	18	16	▲7	▲31.9	▲1	▲10.2
営業利益率 (%)	14.4	15.3	14.0	13.8	14.8	13.4	10.8	10.6	▲3.1P	-	▲0.1P	-
その他												
売上高	8	6	6	12	7	6	7	11	▲1	▲8.1	+4	+68.5
営業利益	0	0	0	0	0	0	0	0	+0	201.1	+0	+16.0
営業利益率 (%)	7.6	3.2	5.4	0.7	3.0	3.6	3.6	2.4	1.7P	-	▲1.1P	-

四半期推移《サブセグメント別売上高》

単位：億円



前年同期比 《営業外収支、特別利益／特別損失》

単位：億円	FY17	FY18	前年同期比	単位：億円	FY17	FY18	前年同期比
営業外収益	36	38	+2	特別利益	124	122	▲1
受取利息	13	17	+3	固定資産売却益	3	0	▲3
受取配当金	14	14	+0	投資有価証券売却益	59	122	+62
売買目的有価証券運用益	3	-	▲3	厚生年金基金代行返上益	60	-	▲60
特定金銭信託運用益	1	0	▲0	特別損失	30	33	+2
その他	4	5	+1	固定資産除却損	3	0	▲2
営業外費用	17	9	▲8	特別退職金	3	-	▲3
支払利息	6	5	▲0	事業構造改善費用	-	25	+25
為替差損	9	-	▲9	減損損失	18	1	▲17
その他	1	3	+1	関係会社株式売却損	1	-	▲1
営業外収支	18	29	+10	その他	2	4	+2

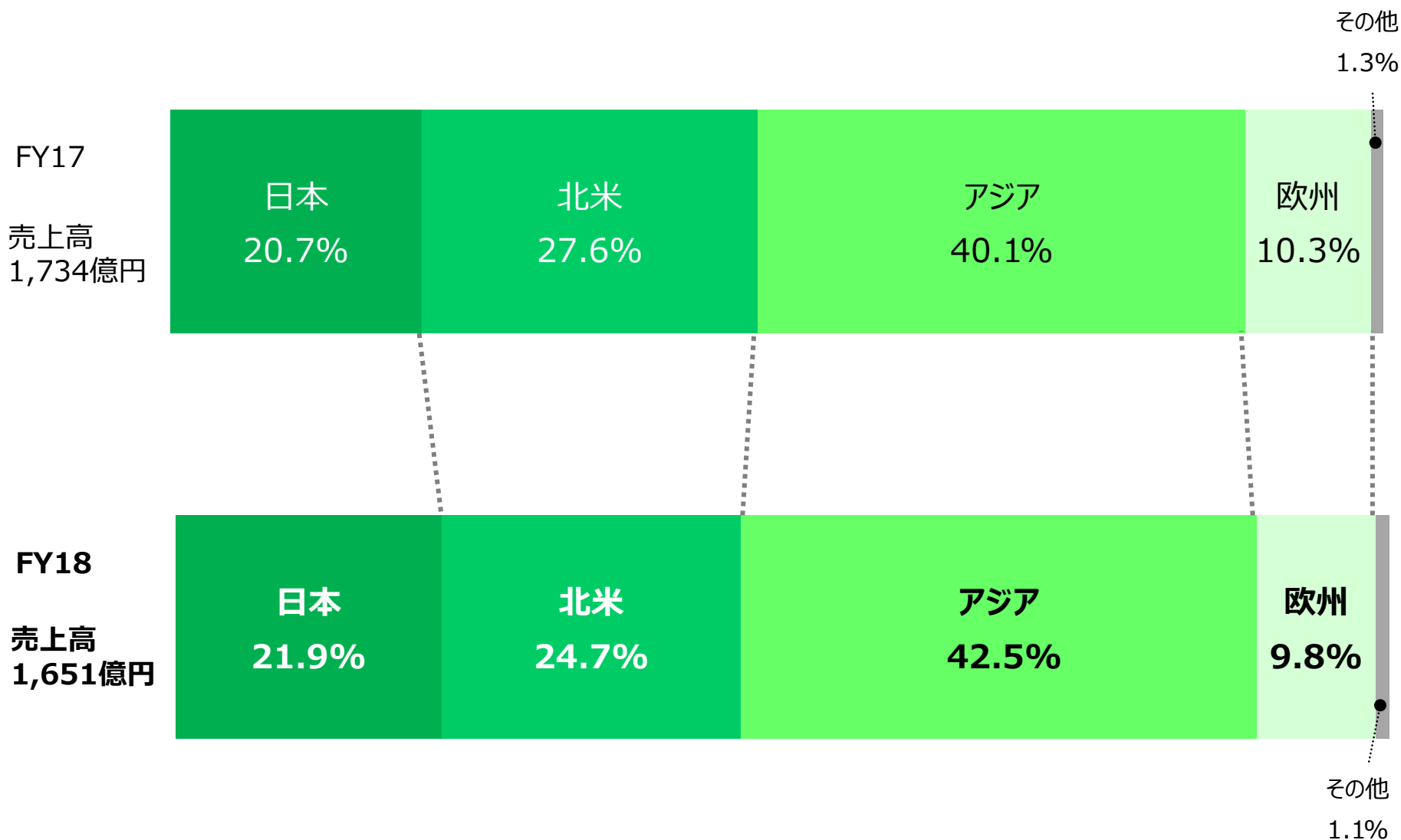
四半期推移《営業外収支》

単位：億円	FY17				FY18				FY18 4Q - FY17 4Q		FY18 4Q - FY18 3Q	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%	増減	%
営業外収益	13	5	13	4	15	6	11	5	+0	+8.6	▲6	▲53.8
受取利息	2	3	2	4	4	4	4	4	+0	+6.6	▲0	▲1.8
受取配当金	6	0	6	0	6	0	7	0	+0	+352.2	▲7	▲98.0
売買目的有価 証券運用益	1	0	2	▲1	0	0	▲1	-	+1	+100.0	+1	+100.0
特定金銭信託 運用益	0	0	0	▲0	0	0	▲0	0	+0	+276.2	+0	+254.9
その他	1	0	0	2	4	0	0	0	▲2	▲93.7	▲0	▲82.1
営業外費用	1	2	4	8	1	1	4	1	▲6	▲77.6	▲2	▲57.9
支払利息	1	1	1	2	0	1	1	1	▲0	▲25.5	+0	+13.6
為替差損	0	1	2	4	-	-	-	-	▲4	▲100.0	-	-
その他	0	0	0	1	0	0	2	0	▲1	▲98.2	▲2	▲99.3
営業外収支	11	2	8	▲3	14	4	6	3	+6	+201.6	▲3	▲51.3

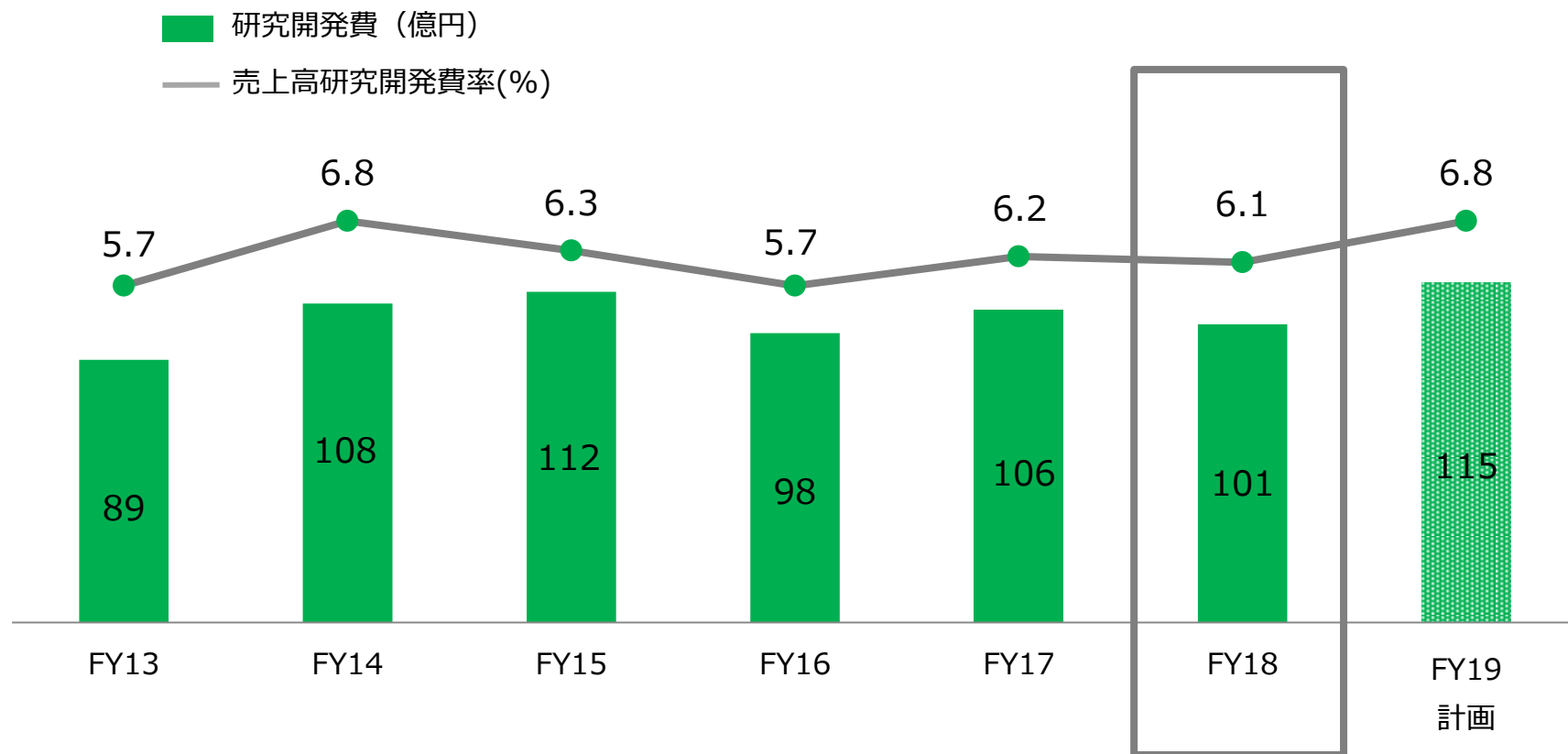
四半期推移《特別利益／特別損失》

単位：億円	FY17				FY18				FY18	FY17	FY18	FY18
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q - 4Q	4Q - 4Q	4Q - 3Q	4Q - 3Q
									増減	%	増減	%
特別利益	62	0	10	52	0	0	17	104	+52	+100.9	+87	+497.3
固定資産売却益	1	0	0	2	0	0	0	0	▲2	▲99.8	▲0	▲97.5
投資有価証券売却益	0	▲0	9	49	-	-	17	104	+54	+110.1	+87	+503.8
厚生年金基金 代行返上益	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
特別損失	0	7	2	19	7	9	4	12	▲7	▲38.1	+7	+186.9
固定資産除却損	0	1	0	1	0	0	0	0	▲1	▲80.8	+0	+118.3
特別退職金	0	2	1	0	-	-	-	-	▲0	-	-	-
退職給付制度改定損	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-
事業構造改善費用	-	-	-	-	6	6	4	8	+8	-	+3	+74.7
減損損失	-	1	-	17	-	-	-	1	▲15	▲91.9	+1	-
関係会社株式売却損	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	0	0	0	0	0	2	▲0	2	+1	+229.8	+3	+711.4

地域別売上高比率



研究開発費

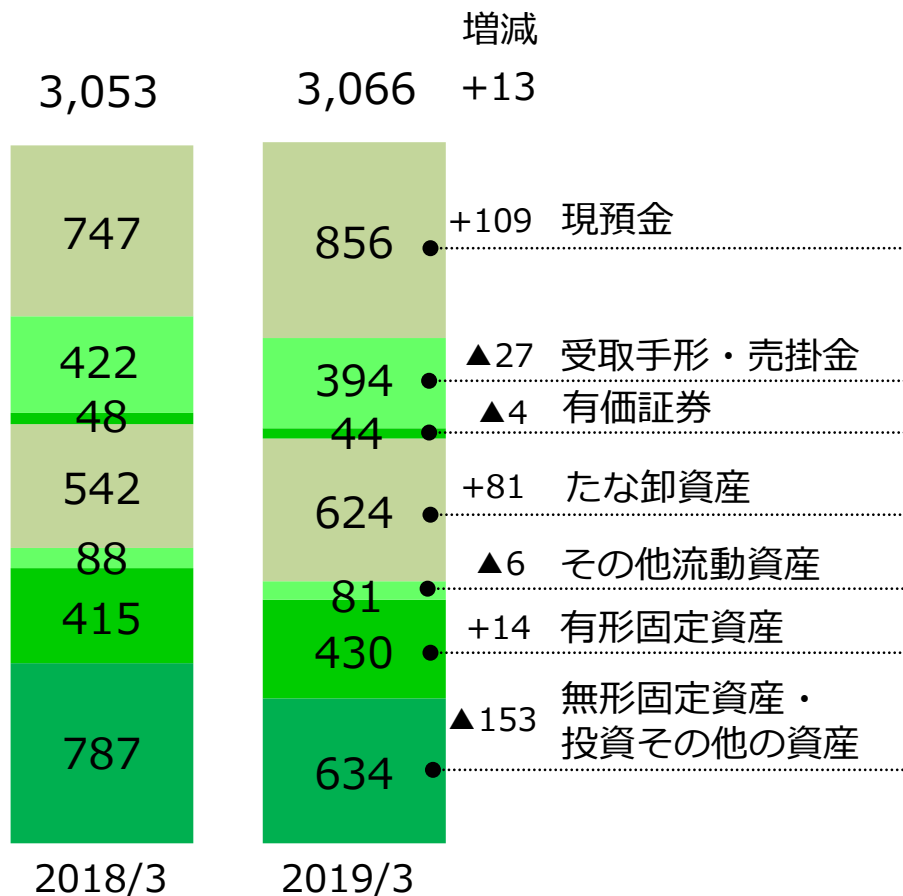


単位：億円

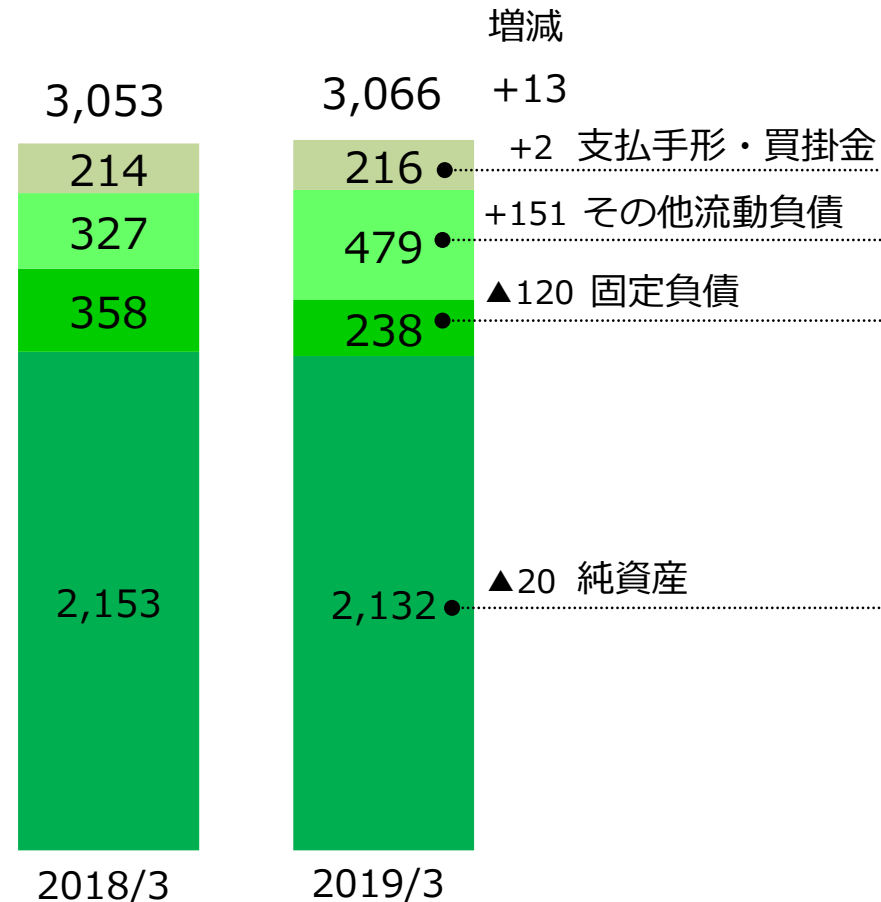
	FY17	FY18	前年同期比	
			増減	%
研究開発費	106	101	▲5	▲5.3
売上高研究開発費率(%)	6.2	6.1	▲0.0P	-

貸借対照表

◆ 資産 (億円)



◆ 負債・純資産 (億円)



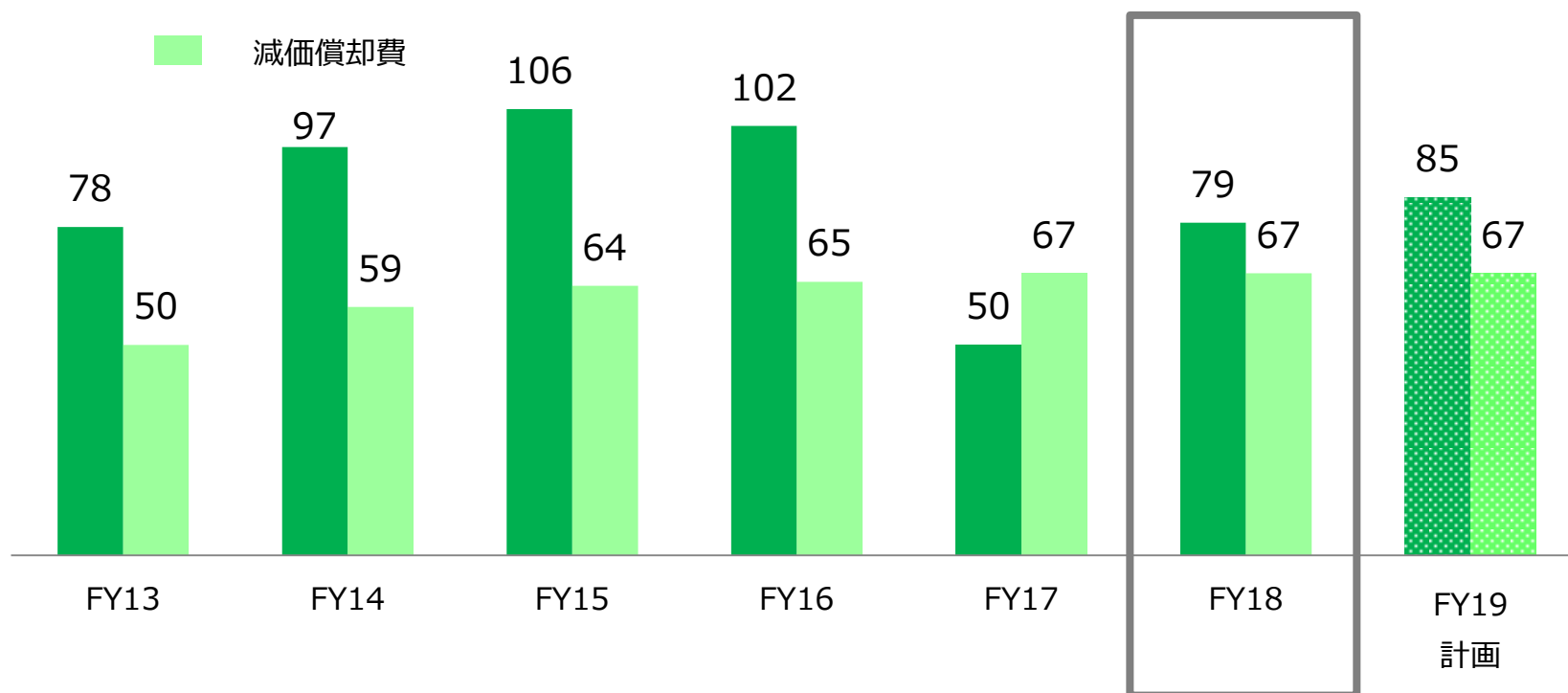
● 回転月数 (ヶ月)	2018/3	2019/3
売上債権	2.9	3.0
たな卸資産	3.7	4.2

● 自己資本比率 (%)	2018/3	2019/3
	70.4	69.5

設備投資額・減価償却費

単位：億円

■ 設備投資額
■ 減価償却費



単位：億円

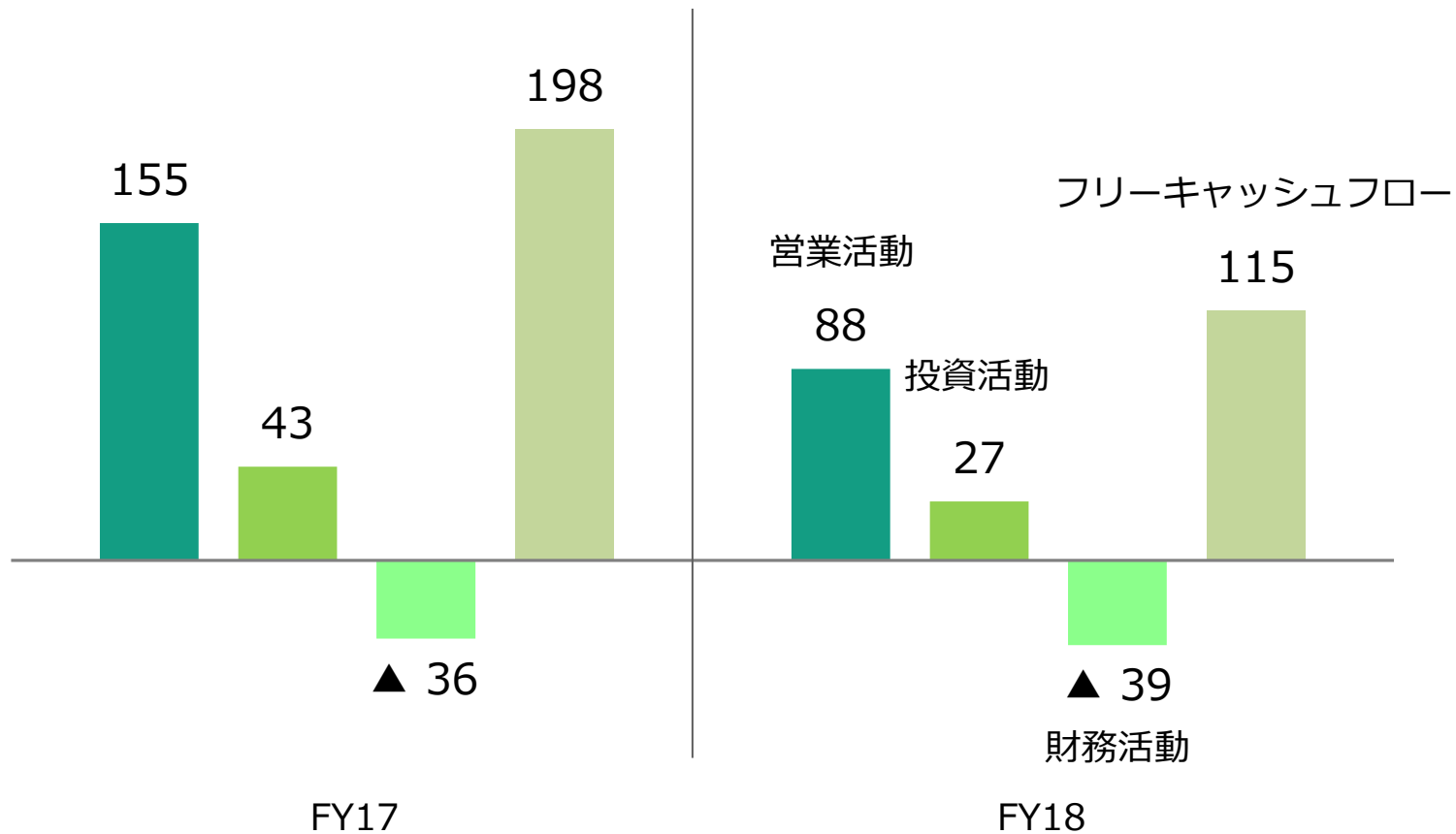
	FY17	FY18	前年同期比	
			増減	%
設備投資額	50	79	+28	+56.5
減価償却費	67	67	▲0	▲0.2

注1. 設備投資額は「有形固定資産」+「無形固定資産」。ただし、「のれん」は除く。

注2. 設備投資額に含まれない「のれん」増加額 FY17：2億円、FY18：5億円

キャッシュフロー

単位：億円



期首現金残高	509
期末現金残高	660

期首現金残高	660
期末現金残高	746

プロジェクター比較

光源	レーザー		ランプ	
	RGBレーザー	蛍光体レーザー	クセノンランプ	超高圧水銀ランプ
シネマ	 <p>CP4325-RGB CP2320-RGB CP2315-RGB</p> <p>明るさ(lm) <40,000</p>	<p>ラインナップなし</p>	 <p>CP2308 他</p> <p>明るさ(lm) <45,000</p>	<p>ラインナップなし</p>
一般映像	 <p>D4K40-RGB</p> <p>明るさ(lm) <40,000</p>	 <p>Crimson GS シリーズ 他</p> <p>明るさ(lm) <30,000</p>	 <p>Roadie 他</p> <p>明るさ(lm) <45,000</p>	 <p>Boxer 他</p> <p>明るさ(lm) <30,000</p>
本体価格	中 - 高	中	中	低
本体寿命	長	中	中 - 長*	中*
色	★★★	★	★★	★ または ★★

* ランプ交換が必要

ランププロジェクターの中で一般映像用の水銀ランプ・シネマ用のクセノンランプは、蛍光体レーザープロジェクターよりも寿命が長いことがあります。

プレスリリース： RGBレーザープロジェクターの受注について①

Huaxia Film Distribution Co., Ltd.とPLF拡大の戦略的パートナーシップを発表

中国の大手配給会社 Huaxia Film Distribution Co., Ltd. の手掛ける、プレミアムな映画“Cinity Cinema System”の上映システムへ、120fpsのハイフレームレートに対応したクリスティのRGBレーザープロジェクターを提供することが決定致しましたのでお知らせいたします。Cinity Cinema Systemは、2019年8月に、中国本土、香港、マカオ、台湾で計100システム（1システム2台のDCPを使用）が設置され、その後世界に設置される予定です。

リリース全文：<https://www.christiedigital.com/en-us/about-christie/news-room/press-releases/huaxia-film-initiates-strategic-partnerships>（2019年4月3日発表）



インドネシアのシネマチェーン Cinema21からRGB機を100台受注

インドネシアの大手シネマチェーンであるCinema21より、100台のRGBレーザープロジェクターを受注致しましたのでお知らせいたします。RGBレーザープロジェクターの性能が認められ、2018年12月発表に続き追加受注をいただきました。

リリース全文：<https://www.christiedigital.com/en-us/about-christie/news-room/press-releases/cinema-21-increases-investment-in-christie-reallaser>（2019年3月25日発表）



リリース全文：<https://www.christiedigital.com/en-us/about-christie/news-room/press-releases/cinema-21-acquires-christie-cp4325-rgb-reallaser-projectors>（2018年12月11日発表）



2020年ドバイ国際博覧会 オフィシャルディスプレイおよびプロジェクションパートナーに認定

2020年10月20日から開催されるドバイ国際博覧会の、ディスプレイおよびプロジェクションのオフィシャルパートナーに認定されました。

メインパビリオンとなる、Al Wasl Plaza's iconic dome（アル・ワシ・プラザ アイコニックドーム）では、クリスティのD4K40-RGBが約250台設置され、ドームでの壮観な映像体験をうみだします。

また、200以上のパビリオンのある万博会場全体で、クリスティのオーディオビジュアルソリューションを提供致します。



Al Wasl Plaza dome イメージ図 © Adrian Smith + Gordon Gill Architecture

Christie D4K40-RGB

RGBレーザー光源を搭載したノンシネマプロジェクター
Al Wasl Plaza dome に約250台設置予定



リリース全文：<https://www.christiedigital.com/emea/about-christie/news-room/press-releases/christie-named-as-official-partner-to-expo-2020>（2019年5月2日発表）



プレスリリース： 投影露光装置の生産能力増強のお知らせ

ウシオ電機株式会社は最先端ICパッケージ基板の新たな需要増に対応するため、最先端ICパッケージング基板、フレキシブル基板の新たな需要増に対応するため、分割投影露光装置(UX-5シリーズ)及びロール搬送投影露光装置(UFXシリーズ)の生産能力増強の設備投資を決定しましたのでお知らせいたします。

今後、IoTの進展に伴い、大容量かつ高速でのデータ処理に対応したデータセンター向けサーバーの需要増加が見込まれています。一方、スマートフォンを始めとするディスプレイの分野では、OLEDの採用や狭額縁化がすすみ、COFと呼ばれるフレキシブル基板の需要が増加しています。

いずれも、採用される基板には高い解像性や重ね合せ精度が求められます。それらの要求を高い生産性で実現する露光装置を増産することで、IoTの進展による豊かな社会づくりに貢献します。

<設備投資の概要（予定）>

- (1) 投資内容 : 露光装置の製造設備導入及び生産スペースの拡張
- (2) 設置場所 : 御殿場事業所（静岡県御殿場市）
- (3) 増産計画 : 既に順次生産能力を増強しており、2019年後半より従来比2倍以上とする



御殿場事業所



分割投影露光装置（UX-5シリーズ）



ロール搬送投影露光装置（UFXシリーズ）

<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1003/2019-2019/500442.html>（2019年5月9日発表）



プレスリリース： グループ会社再編による光源事業統合のお知らせ

ランプから、LED、半導体レーザーまで、光源ソリューションをワンストップで提供

ウシオ電機株式会社は、2020年4月1日付で、100%子会社であるウシオオプトセミコンダクター株式会社（以下、「ウシオオプトセミコンダクター」）と事業統合することとなりました。

ウシオ電機は創業以来、産業用光源メーカーとして各種ランプとモジュールの開発・製造・販売を、ウシオオプトセミコンダクターは光半導体デバイス(LEDおよび半導体レーザー)の開発・製造・販売を行ってまいりました。このたび、両社の光源事業を一体化することで、光源事業の効率化とともに、多様化する顧客ニーズや経営環境に迅速かつ的確に対応し、ウシオグループ全体で光源事業の拡大を加速させてまいります。

ウシオグループは今後も、豊富な光源製品ラインナップを通して、お客様に最適な光ソリューションをご提案していくと共に、光のイノベーションを通して豊かな社会の実現を貢献してまいります。

■ ウシオオプトセミコンダクター株式会社

本社：東京都、代表取締役社長 伴野 裕明

2014年7月設立。ウシオ電機株式会社の100%子会社。日本オクラロ株式会社の赤色、紫色および赤外のレーザー事業を継承。2016年7月、カスタムLED、フォトセンサの製造販売をしていたウシオエピテックス株式会社と事業統合し、ウシオグループにおいて、紫外から可視、赤外域にわたる光半導体事業の中核を担っています。

<http://www.ushio-optosemi.com/jp/>

<https://www.ushio.co.jp/jp/news/1001/2019-2019/500414.html> (2019年1月31日発表)



プレスリリース： 取締役の異動に関するお知らせ

ウシオ電機株式会社は、2019年3月25日開催の取締役会において、取締役（監査等委員である取締役を除く。以下同じ。）の異動について内定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、取締役の選任につきましては、2019年6月下旬に開催予定の定時株主総会において正式に決定される予定です。

1. 退任予定取締役（定時株主総会終結をもって退任）

氏名	新役職名	2019年4月1日付 役職名
ばんの ひろあき 伴野 裕明	常務執行役員 事業統括本部光源事業部 光源統合ソリューションセンター長	取締役兼常務執行役員 事業統括本部光源事業部 光源統合ソリューションセンター長

2. 新任取締役候補者

氏名	新役職名	2019年4月1日付 役職名
かわむら なおき 川村 直樹	取締役兼専務執行役員 事業統括本部長兼システムソリューション事業部長	専務執行役員 事業統括本部長兼システムソリューション事業部長
かみやま かずひさ 神山 和久	取締役兼グループ上級執行役員 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC. 取締役社長 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. 取締役会長 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. 取締役会長	グループ上級執行役員 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS, INC. 取締役社長 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS USA, INC. 取締役会長 CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA, INC. 取締役会長
ささき とよなり 佐々木 豊成	社外取締役	—



用語集

DCP	Digital Cinema Projector	デジタルシネマプロジェクター
DI	Direct Imaging	直描
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
IoT	Internet of Things	モノのインターネット
LaPH	Laser Phosphor	蛍光体レーザー
M-SAP	Modified Semi Additive Process	エムサップ
OA	Office Automation	オフィスオートメーション
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL
PLF	Premium Large Format	通常の映画経験以上の高音質、没入感を追及したスクリーンなどのこと
Pro AV	Professional Audio Visual	プロフェッショナルオーディオビジュアル
RGB	Red Green Blue	赤 緑 青
UV	Ultraviolet	紫外
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
(03) 5657-1007
ir@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>